

—大庄北中新聞から—

今回はぐ〜と時間が飛んで、平成 6 年まで発行していた「大庄北中新聞」の中から記事をひろってみました。新聞部を中心に記事を書き、印刷所に出して発刊していた本格的なものです。その中からのインタビュー記事です。皆さんの先輩が記者として出かけて行ってインタビューしたのですが、登場人物はびっくりするような人たちばかりです。新聞部の凄さを、情熱を、答えてくださった方々の優しさを感じます。

インタビューを受けてくださった方々は次の方々です。「阪神タイガース 元投手江夏 豊さん」「元横綱 千代の富士関」「阪神タイガース元監督 中西 太さん」「ABC 放送おはようパーソナリティ 道上洋三さん」「歌手 三沢あけみさん」「現オリックス監督 岡田彰布さん」「落語家 笑福亭鶴塀さん」「漫画家 手塚治虫さん」「ヨット 堀江謙一さん」「ギターリスト クロード・チェアリさん」「世界の盗塁王 福本 豊さん」「落語家 桂 文珍さん」「作家 香川登枝緒さん」などです。凄いでしょ。北中生へのメッセージを一部紹介します。

・「甘えず、何事にも努力、人の倍も三倍もすることだね」

千代の富士関

・「先生や目上の方が言われることはよく守ることが大事やな。それは将来必ず役に立つことや。また、がまんすることは自然なこと、耐えるということが、卑屈になるというものではない。大人になっても、他人に迷惑をかけない社会人になるために必要なものや。今の子は何か失敗すると、すぐに他人のせいにする」

中西 太 さん

・「やる気持ちをもつこと。最後まであきらめんことですな」

桂 文珍さん

・「おこるな」「いばるな」「あせるな」「くさるな」「まような」

福本 豊 さん

・「一つは”緊張感”をもてやな。毎日に生活がダラダラしとってピリッとしたところがない。もう一つは”スタート”せえと言うこと。こうしたらこうなる、こうなるからああなる、とまだなっていない先のことを考えめぐらして何もしない。若い者はそれではあかん。スタートしよう」

笑福亭鶴塀さん

どうですか。みなさんその道で頂点を極めた方々です。でも、メッセージは、具体的でわかりやすく、そして、あたりまえのことに思えるんですが、どうでしょう。「あたりまえのことをあたりまえにする」ここがポイントのようです。私はそう感じました。